

I - B - 14 鉄欠乏性貧血に対する人參養榮湯の効果

東邦大学佐倉病院産婦人科

○柳堀 厚 宮城 美香子 堀 正行 大高 究 松島 弘充 伊藤 元博

【目的】産婦人科領域に於いて子宮筋腫等の原因による過多月経が慢性化し鉄欠乏性貧血となり鉄剤を投与する機会が多い。重症貧血症に対して気血双補剤である人參養榮湯と経口鉄剤との併用が著効した症例を経験したことより今回、人參養榮湯の鉄欠乏性貧血に対する経口鉄剤との併用効果を経口鉄剤単独投与と比較検討し若干の治験を得たので報告する。

【方法】過多月経及び不正性器出血により鉄欠乏性貧血（Hb 9.0 g/dl以下）と診断した症例を対象に封筒法によるsingle blind study法により2群に分類した。両群にクエン酸第一鉄（フェロミア®）100mg/day投与し、併用群にはカネボウ人參養榮湯エキス顆粒5.0g/day併用し投与した。原則として4週間投与し、投与開始時及び投与後の血液検査（Hb, Ht, 赤血球）生化学検査（血清鉄、フェリチン）自覚症状等について評価した。

【結果】人參養榮湯併用群18例、鉄剤単独投与群14例に対して検討した結果、全例に貧血の改善をみた。血液検査、生化学検査、自覚症状ともに2群間で有意差は示さなかったが、Hbの%変化率を比較すると人參養榮湯併用群が有意に上昇していた。また投与前後でHbが4.0g/dl以上上昇した症例は単独群の2例に比較して併用群では11例であった。

【考察】鉄欠乏性貧血に対する治療は経口鉄剤投与であり漢方療法では鉄の吸収促進を補う補気健脾剤の四君子湯が併用される。貧血は血虚の一種であり補血剤の四物湯の効果が期待できる。使用した人參養榮湯は四君子湯と四物湯に黄耆、五味子、遠志、陳皮を加え川芎を除いた方剤であり、気血両虚に処方される。今回の治験では鉄欠乏性貧血症例に対し単独経口鉄剤投与群に比べ人參養榮湯併用群の有用性が確認され、特に重症貧血症例には著効を示した。